

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年3月29日

【事業年度】 第87期(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

【会社名】 株式会社ハマイ

【英訳名】 HAMAI INDUSTRIES LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 河 西 聡

【本店の所在の場所】 東京都品川区西五反田七丁目7番7号 SGスクエア2階

【電話番号】 03(3492)6711(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 管理本部長 吉 村 真 介

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区西五反田七丁目7番7号 SGスクエア2階

【電話番号】 03(3492)6711(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 管理本部長 吉 村 真 介

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第83期	第84期	第85期	第86期	第87期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
売上高 (千円)	7,525,913	7,657,048	7,537,597	8,315,350	8,452,922
経常利益 (千円)	868,821	528,353	851,528	635,873	517,103
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	585,525	231,280	465,975	434,358	315,815
包括利益 (千円)	730,228	116,705	578,438	776,468	92,259
純資産額 (千円)	12,171,887	12,006,815	12,413,881	12,793,798	12,719,203
総資産額 (千円)	16,034,016	15,607,725	16,006,805	17,037,967	16,981,329
1株当たり純資産額 (円)	1,775.63	1,751.56	1,810.94	1,917.36	1,906.19
1株当たり当期純利益 (円)	84.19	33.74	67.98	63.62	47.33
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	75.9	76.9	77.6	75.1	74.9
自己資本利益率 (%)	4.9	1.9	3.8	3.4	2.5
株価収益率 (倍)	12.7	30.5	14.2	20.0	21.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	566,719	97,847	914,962	587,643	707,562
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	300,517	306,847	617,228	935,390	705,816
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	453,859	357,509	362,853	426,223	204,621
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	4,649,394	4,679,811	4,603,042	3,838,617	3,630,426
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者 数) (名)	187 (75)	196 (86)	208 (82)	223 (87)	245 (84)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため、記載しておりません。

3 前連結会計年度末に比べ従業員数が22名増加しております。主な理由は、業容の拡大に伴い期中採用が増加したことによるものあります。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第83期	第84期	第85期	第86期	第87期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
売上高 (千円)	7,504,528	7,668,310	7,419,679	8,163,738	8,302,642
経常利益 (千円)	987,072	710,510	1,024,354	714,094	645,817
当期純利益又は 当期純損失( ) (千円)	703,753	412,641	638,436	512,547	254,553
資本金 (千円)	395,307	395,307	395,307	395,307	395,307
発行済株式総数 (株)	7,424,140	7,424,140	7,424,140	7,424,140	7,424,140
純資産額 (千円)	12,265,613	12,297,177	12,893,789	13,336,692	12,722,880
総資産額 (千円)	16,078,010	15,887,829	16,463,417	17,550,658	16,948,407
1株当たり純資産額 (円)	1,789.31	1,793.92	1,880.95	1,998.72	1,906.74
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当 額) (円)	25.00 (10.00)	25.00 (10.00)	27.00 (10.00)	25.00 (10.00)	25.00 (10.00)
1株当たり当期純利益 又は当期純損失( ) (円)	101.19	60.2	93.14	75.08	38.15
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	76.3	77.4	78.3	76.0	75.1
自己資本利益率 (%)	5.9	3.4	5.1	3.9	
株価収益率 (倍)	10.6	17.1	10.4	17.0	
配当性向 (%)	24.7	41.5	26.8	33.3	
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者 数) (名)	181 (75)	184 (86)	191 (82)	207 (87)	228 (84)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 平成28年12月期の1株当たり配当額27円(1株当たり中間配当額10円)には、創業90周年記念配当2円を含んでおります。

3 平成26年12月期から平成29年12月期までの潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため、記載しておりません。

4 平成30年12月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式がないため、記載しておりません。

5 平成30年12月期の自己資本利益率、株価収益率、配当性向については、当期純損失が計上されているため記載しておりません。

6 前事業年度末に比べ従業員数が21名増加しております。主な理由は、業容の拡大に伴い期中採用が増加したことによるものであります。

## 2 【沿革】

- 昭和2年2月 故会長浜井栄がガス溶断器の製造を目的に浜井製作所を創立した。
- 昭和14年12月 個人経営から合名会社に改組する。
- 昭和18年1月 西大崎一丁目から西五反田五丁目に移転する。
- 昭和28年8月 プロパンガス容器用バルブの製造を開始する。
- 昭和33年10月 株式会社に改組する。ガス溶断器の製造を縮小撤退する。
- 昭和35年11月 東京都府中市に府中工場を新設する。
- 昭和37年6月 販売部門を分離独立させて、社名をミスヂ商事株式会社とする。
- 昭和40年7月 株式の額面変更のため、昭和23年5月24日設立の浜井興業株式会社に吸収合併させ、社名をもとの株式会社浜井製作所とする。
- 昭和47年6月 株式を日本証券業協会店頭売買銘柄に登録する。
- 昭和49年5月 千葉県夷隅郡大多喜町に大多喜工場を新設し、配管用バルブの製造を開始する。
- 昭和51年4月 本社工場を府中工場に移設し、閉鎖する。
- 昭和59年7月 ミスヂ商事株式会社を吸収合併し、当社営業部とする。
- 昭和61年4月 高圧ガスバルブの製造組立を業とするアコン株式会社を設立した。
- 昭和63年3月 米国のバルブ製造販売会社サーモバルブ株式会社(THERMO VALVES CORP.)を買収し販売会社とする。
- 平成3年4月 社名を株式会社ハマイと変更。
- 平成3年7月 九州ハマイ株式会社を吸収合併し、当社福岡営業所とする。
- 平成8年3月 米国にスキューバダイビング用器材の販売会社として、SEAGATE CYLINDER CO, INCを設立した。
- 平成9年4月 府中工場余剰地に建設した店舗建物の賃貸を開始する。
- 平成13年4月 コンピューター関連機器等販売会社の株式会社ビジネス・リンクスの株式を取得し、子会社とした。
- 平成16年12月 株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場した。
- 平成17年2月 LPバルブの生産累計が2億個を達成した。
- 平成20年3月 株式会社ビジネス・リンクスの株式を全て売却し、当社の子会社(連結子会社)から外れた。
- 平成21年12月 サーモバルブ株式会社(THERMO VALVES CORP.)を閉鎖した。
- 平成22年4月 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ市場に上場した。
- 平成22年10月 大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ市場(スタンダード)に株式を上場した。
- 平成25年2月 韓国に株式会社ハマイコリア(100%株式会社ハマイ出資)を設立した。
- 平成25年7月 東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ市場(スタンダード)に株式を上場した。
- 平成27年10月 西五反田五丁目から現本社所在地に移転する。
- 平成29年2月 創業90周年を迎えた。
- 平成29年3月 旧本社跡地に建設した介護付有料老人ホームの賃貸を開始する。

### 3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社及び連結子会社1社、非連結子会社1社並びに関連会社2社で構成され、LPG容器用バルブ・高圧ガス容器用バルブ及び設備弁・配管用バルブの製造及び販売を行っており、当社グループの主な事業内容と当該事業における位置付け及びセグメントとの関連は次のとおりであります。

#### 1．バルブ事業

##### LPG容器用バルブ・高圧ガス容器用バルブ及び設備弁関連

当社は、LPG容器用バルブ・高圧ガス容器用バルブ及び設備弁を製造販売しております。関連会社北陸ハマイ株式会社は北陸地区の代理店として、関連会社四国ハマイ株式会社は四国地区の代理店としてそれぞれ、当社の製品を販売しております。

また、子会社株式会社ハマイ코리아は韓国市場における拠点として高圧ガス容器用バルブを製造販売し、当社の高圧ガス容器用バルブについても販売しております。

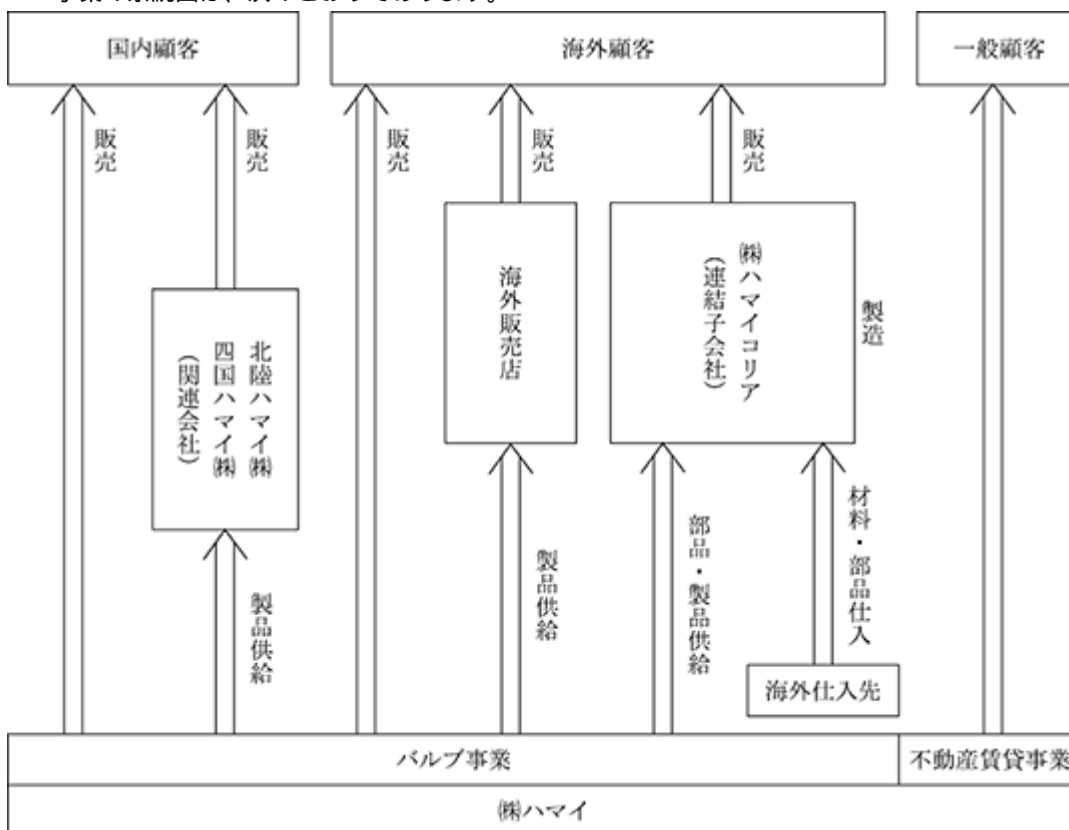
##### 配管用バルブ関連

当社が製造販売するほか、北陸ハマイ株式会社は北陸の代理店として、四国ハマイ株式会社は四国地区の代理店として、それぞれ当社の配管用バルブ等を販売しております。

#### 2．不動産賃貸事業

当社は、バルブ事業の他、店舗用ビル、老人ホーム施設等の不動産賃貸事業を行っております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



(注) 関連会社につきましては、持分法を適用しておりません。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万ウォン)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社ハマイ 코리아(注)1	韓国(釜山広 域市)	10,000	各種バルブの製 造、販売	100	当社製品の販売 資金の貸付 役員の兼任2名

(注)1. 特定子会社であります。

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成30年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
バルブ事業	238〔84〕
不動産賃貸事業	〔 〕
全社(共通)	7〔 〕
計	245〔84〕

(注)1 従業員は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人数を外数で記載しております。  
2 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

##### (2) 提出会社の状況

平成30年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
228〔84〕	39.6	13.0	5,120,620

セグメントの名称	従業員数(名)
バルブ事業	221〔84〕
不動産賃貸事業	〔 〕
全社(共通)	7〔 〕
計	228〔84〕

(注)1 従業員は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人数を外数で記載しております。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

##### (3) 労働組合の状況

労働組合は、当社グループにおきまして提出会社の府中工場にのみあります。

名称 株式会社ハマイ従業員労働組合

組合員数 48名

労使関係 安定しており概ね良好であります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社の一貫した基本方針は、確かな品質管理体制を維持し顧客の信頼に応えることを念頭においており、高圧ガス関連機器の用途開発の多岐にわたる発展を目標に、バルブを通じて社会に貢献することを目指しております。

#### (2) 目標とする経営指標

当社は、収益性のある経営を目指しており、品質向上、コスト管理の徹底と継続的な技術開発を心がけ、売上高経常利益率10%以上を目指しております。

併せて、総資産利益率（ROA）や株主資本利益率（ROE）といった経営の効率性を重視した事業運営に注力する所存であります。

#### (3) 当社を取り巻く経営環境と中長期的な会社の経営戦略

当社が関連するバルブ業界を取り巻く経営環境は、エネルギー改革の進展やマーケットの東南アジア等へのロケーション変化への対応など取り組むべき課題は多岐に亘っています。また材料費の高騰によるコスト上昇圧力の高まりもあり、一層の生産効率の向上によるコストダウンが必至の状況でもあります。斯かる展望下、当社の既存メイン商品の将来の需要動向も楽観できるものではなく、新規商品開発による競争力の強化や新エネルギーへの積極的な取り組みによるマーケットプレゼンスの強化及び海外等への新たなマーケットをターゲットとした経営戦略を着実に展開して参ります。

#### (4) 会社の対処すべき課題

中期経営計画（5年）の実行3年目にあたり、製造・販売・技術・間接部門での様々な課題を達成していく為の土台づくりを強力に推進して参ります。

今年度に特に重点的に取り組む課題は、下記4点です。

既存製品のコストダウンと顧客ニーズに対応した新製品の拡販

生産現場の生産効率向上により既存主力製品のコストダウンを図り、市場競争力並びに収益性のアップに取組みます。更に顧客ニーズを捉えた製品のメニューアップと提案型営業の強化による販売ルート拡大を図って参ります。

品質保証体制の強化・体質改善

グローバルに拡大する顧客市場から求められる厳しい調達基準に追従し、更なる安全・安心を提供出来る様、品質管理体制の改革・改善を推進して参ります。

水素関連ビジネスの育成、拡大

水素燃料電池自動車用バルブ等の供給と水素ガスを供給するステーションのインフラ設備機器等の供給に、積極的に取り組んで参ります。

海外戦略、特にアジア圏への販売強化

韓国に設立した子会社の株式会社ハマイ코리아は、現地の製造工場且つアジアに向けた販売拠点でもあり、同社を軸にアジア展開を推進して参ります。同社の業況につきましては、創業赤字期を脱し単年度黒字化も見込まれる状況になりつつあると認識しており、今後も積極的に支援し、当社の海外展開を推進して参ります。

### 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループの関連する業界（バルブ事業）においては、規制緩和やLPガス容器の大型化等の影響により、需要全体としては減少傾向にあり、需給バランスの変化による受注競争の厳しさが激化した場合、当社グループの業績に影響を与える場合があります。

当社グループは材料費の高騰の影響を受けますので、材料費の上昇が著しい場合、当社グループの業績に影響を与える場合があります。

民間設備投資の動向、半導体業界を中心とした需要の動向等経済環境の変化があった場合、当社グループの業績に影響を与える場合があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度の当社グループに関する財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は、以下のとおりであります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国の経済状況は、企業収益や雇用および所得環境の改善で、個人消費は底堅く推移しており、景気は緩やかな回復が継続しております。一方世界経済は、緩やかな回復基調を維持してはりましたが、年後半からの米国と中国の貿易摩擦の影響などを受けて、成長のペースが弱まりました。

このような中、当社グループの主力商品であるLPG容器用バルブ部門は主力製品の家庭用容器用弁の需要減の影響から売上高は前年同期を下回りましたが、配管用バルブ部門及び高圧ガスバルブ部門は堅調な設備投資や半導体関連が好調に推移したことから販売数量は順調に推移し、売上高は前年同期を上回り84億5千2百万円、前年同期比1億3千7百万円（1.7%）の増収となりました。

一方収益面では、全社を挙げて生産性向上と原価低減に努めたものの、主要原料である黄銅材料の高騰に加えて、前期からの設備投資に伴う減価償却費の負担増の影響により、営業利益は4億8千1百万円、前年同期比5千5百万円（10.4%）の減益、経常利益は5億1千7百万円、前年同期比1億1千8百万円（18.7%）の減益となり、親会社株主に帰属する当期純利益におきましても3億1千5百万円、前年同期比1億1千8百万円（27.3%）の減益となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

##### 〔バルブ事業〕

当社の主力製品であるLPG容器用バルブ部門の売上高は31億4千8百万円（前期比4.4%減）、配管用バルブ部門の売上高は18億6千3百万円（前期比11.3%増）、高圧ガスバルブ及びガス関連設備機器部門の売上高は19億7千1百万円（前期比3.8%増）、その他売上高は8億9千2百万円（前期比1.6%減）となり、その結果、売上高は78億7千6百万円（前期比1.3%増）となり、また営業利益は1億1千7百万円（前期比39.1%減）となりました。

##### 〔不動産賃貸事業〕

賃貸収入は、5億7千6百万円（前期比6.9%増）、営業利益は3億6千3百万円（前期比5.9%増）となりました。

財政状態の状況は次のとおりであります。

当連結会計年度末の流動資産は、前連結会計年度末と比較して、2億3千2百万円増加し、88億4百万円となりました。これは主に償還期限が一年未満になった有価証券について固定資産から振替えたことと、棚卸資産が増加したことによるものです。

当連結会計年度末の固定資産は、前連結会計年度末と比較して、2億8千8百万円減少し、81億7千6百万円となりました。これは主に投資有価証券について、時価の下落による評価額の減少と償還期限が一年未満になったため流動資産への振替により減少したことによるものです。

当連結会計年度末の流動負債は、前連結会計年度末と比較して、2千1百万円増加し、25億5千5百万円となりました。

当連結会計年度末の固定負債は、前連結会計年度末と比較して、3百万円減少し、17億6百万円となりました。これは主に繰延税金負債の減少によるものです。

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末と比較して、7千4百万円減少し、127億1千9百万円となりました。これは利益剰余金は増加したものの、反面、その他有価証券評価差額金の減少したことによるものです。



## (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して2億8百万円（前年比5.4%）減少し、36億3千万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、7億7百万円の収入（前期は5億8千7百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益5億1千4百万円によるものです。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、7億5百万円の支出（前期は9億3千5百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得によるものです。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億4百万円の支出（前期は4億2千6百万円の支出）となりました。これは主に、リース債務の返済と配当金の支払によるものです。

## (3) 生産、受注及び販売の状況

### 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高 (千円)	前年同期比 (%)
バルブ事業	6,640,392	+3.5
不動産賃貸事業		
合計	6,640,392	+3.5

(注) 1 上記金額は、製造原価を基準に記載しております。

2 上記金額には、消費税等は含んでおりません。

### 受注実績

当社は法令または社内規格に基づき定められた方法による見込生産を主体としており、一部特殊仕様の製品については受注生産を行っておりますが、その売上高に占める割合は、僅少であります。

### 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高 (千円)	前年同期比 (%)
バルブ事業	7,876,253	+1.3
不動産賃貸事業	576,669	+6.9
合計	8,452,922	+1.7

(注) 1 上記金額には、消費税等は含んでおりません。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 5 【研究開発活動】

当社グループの研究開発は、バルブ事業を中心に開発しております。

当連結会計年度における研究開発活動は大別して次の2項目であります。

##### (1) 燃料電池自動車用容器用弁の開発

環境対策で将来主流になるとされる次世代燃料電池自動車用減圧弁付き水素ガス容器用弁の開発を国内自動車メーカーと共同で継続してまいりました。

これまでに蓄積した技術を応用し、超高压対応バルブおよび安全弁の開発も併せ積極的に取組んでおります。

##### (2) 水素ガス供給ステーションのインフラ設備の普及

水素充填ノズルを主に、安全な製品を提供するため技術改良に取り組み、一部ステーションで運用を開始しております。

当連結会計年度に係る研究開発費は2億7千6百万円であります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、生産効率の向上と研究開発機能充実および作業環境の改善などを目的とした継続的な設備投資を実施しております。

当連結会計年度の設備投資等の総額は 前連結会計年度と比較して21億1千4百万円減少し、3億6千万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

##### (1) バルブ事業

当連結会計年度の主な設備投資等は、建物設備の増設関連が(株)ハマイにおいて府中工場1千8百万円、大多喜工場9千1百万円、(株)ハマイコアにおいて2千9百万円ありました。またそれ以外にも、(株)ハマイにおいて生産設備の増設を中心に府中工場3千2百万円、大多喜工場1億5千1百万円、その他3千2百万円、(株)ハマイコアにおいて生産設備の増設を中心に3百万円の投資を実施しました。総額は3億6千万円となります。

##### (2) 不動産賃貸事業

該当事項はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

平成30年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
府中工場 東京都府中市	バルブ事業	生産設備	306,042	119,161	3,644 (2,726.96)	11,520	16,624	456,992	61 〔28〕
大多喜工場 千葉県夷隅郡 大多喜町	"	生産設備	560,263	573,571	177,464 (79,196.22)	16,136	39,044	1,366,480	106 〔50〕
本社 東京都品川区	バルブ事業 不動産賃貸 事業	管理設備	8,356		( )	24,507	9,868	42,731	44 〔3〕
大阪営業所 大阪市北区	バルブ事業	販売設備			( )	1,753	57	1,810	6 〔 〕
名古屋営業所 名古屋市北区	"	"			( )	4,667	19	4,687	5 〔 〕
福岡営業所 福岡市博多区	"	"			( )	3,105	29	3,134	3 〔1〕
仙台営業所 仙台市若林区	"	"			( )	3,441	15	3,457	1 〔2〕
倉敷出張所 岡山県倉敷市	"	"			( )	5,321		5,321	2 〔 〕
賃貸不動産 東京都品川区	不動産賃貸 事業	賃貸設備	1,538,808		85,719 (1,828.06)			1,624,527	
賃貸不動産 東京都府中市他	"	"	747,100		28,412 (17,856.60)			775,513	
賃貸不動産 八王子市東中野	"	"	23,854		11,887 (441.94)			35,742	
その他 夷隅郡大多喜町他 1件	"				10,835 (10,604.00)			10,835	

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品であり、建設仮勘定は含んでおりません。  
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 印は、建物は賃借中であり、年間賃借料44,096千円であります。  
4 従業員数の〔 〕内は臨時従業員数を外書にて表示しております。

### (2) 在外子会社

平成30年12月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
(株)ハマイコリア 韓国(釜山広域 市)	バルブ事業	生産設備 販売設備	327,728	87,834	( )		4,963	420,526	17 〔 〕

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品であり、建設仮勘定は含んでおりません。  
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 印は、土地は賃借中ではありますが、現地優遇措置により賃借料は無償であります。  
4 従業員数の〔 〕内は臨時従業員数を外書にて表示しております。  
5 本社からの出向者の人数は、除いております。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

特記すべき事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,518,000
計	11,518,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成31年3月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,424,140	7,424,140	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	7,424,140	7,424,140		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成13年3月26日(注)	482,000	7,424,140		395,307		477,917

(注) 自己株式の利益による消却であります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		6	14	46	11	1	997	1,075	
所有株式数(単元)		11,799	273	18,399	1,679	1	42,035	74,186	5,540
所有株式数の割合(%)		15.91	0.37	24.8	2.26	0.00	56.66	100.00	

(注) 1 当社は平成30年12月31日現在自己株式を751,549株所有しており、「個人その他」に7,515単元及び「単元未満株式の状況」の欄に49株含めて記載しております。

2 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が50単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
ミスチ株式会社	東京都品川区西五反田7丁目7番7号 SGスクエア2階	862	12.92
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13番1号	624	9.35
浜井三郎	神奈川県横浜市都筑区	368	5.53
佐藤金属株式会社	東京都千代田区神田須田町2丁目13番地3	336	5.04
瀧井啓子	東京都日野市	222	3.32
浜井慶子	神奈川県川崎市宮前区	220	3.29
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	195	2.92
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	195	2.92
富士精密株式会社	東京都府中市宮町1丁目40番10階	176	2.65
株式会社ミッウロコグループホールディングス	東京都中央区京橋3丁目1番1号	175	2.63
計		3,377	50.61

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 751,500		
	(相互保有株式) 普通株式 7,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,660,100	66,601	
単元未満株式	普通株式 5,540		
発行済株式総数	7,424,140		
総株主の議決権		66,601	

- (注) 1 「単元未満株式」には当社所有の自己株式49株が含まれております。  
2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権50個)含まれております。

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ハマイ	東京都品川区西五反田 七丁目7番7号 SGスクエ ア2階	751,500		751,500	10.12
(相互保有株式) 四国ハマイ株式会社	香川県高松市国分寺町 福家甲2466番地11	7,000		7,000	0.09
計		758,500		758,500	10.21

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	36	39,734
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成31年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他( )				
保有自己株式数	751,549		751,549	

(注) 当期間における保有自己株式には、平成31年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。



### 3 【配当政策】

#### 利益配分の基本方針

当社は、配当については、業績に対応した配当を行うことを基本とし、企業体質の一層の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実に留意しつつ、経営成績の状況を勘案して配当を行う所存であります。

#### 毎事業年度における配当の回数についての基本的な方針

中間配当を含め、年2回を原則としております。

#### 配当の決定機関

配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

#### 当期の配当決定に当たっての考え方

当期の配当におきましては、株主各位への安定的な成果配分と当期の業績とを考慮し、中間配当として1株当たり10円をすでに実施しておりますが、当期の業績を勘案し、1株当たり15円を実施することとし、中間配当金と合わせて25円といたしました。

#### 内部留保資金の用途

内部留保資金は設備の合理化、省力化投資、研究開発活動の投資に活用し、事業の拡大に努めてまいります。

なお、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定めております。

(注) 当期を基準日とする剰余金の配当の取締役会又は株主総会の決議年月日は以下のとおりであります。

取締役会決議日	平成30年8月10日	中間配当の総額	66,726千円	1株当たり配当額10円00銭
株主総会決議日	平成31年3月28日	期末配当の総額	100,088千円	1株当たり配当額15円00銭

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第83期	第84期	第85期	第86期	第87期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
最高(円)	1,341	2,347	1,050	1,309	1,275
最低(円)	770	999	809	965	970

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成30年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	1,125	1,130	1,150	1,169	1,120	1,111
最低(円)	1,055	1,080	1,084	1,071	1,040	970

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性11名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		浜井 三郎	昭和16年3月24日生	昭和42年9月 ミスズ商事(株)入社 " 47年5月 ミスズ商事(株)取締役就任 " 54年3月 ミスズ商事(株)常務取締役就任 " 56年3月 当社取締役就任 " 59年7月 当社常務取締役就任 " 61年2月 北陸ハマイ(株)取締役就任 " 61年3月 四国ハマイ(株)取締役就任(現) 平成7年3月 当社代表取締役社長就任 平成28年3月 当社代表取締役会長就任(現)	(注)1	368
代表取締役 社長	事業開発本部長	河西 聡	昭和33年5月21日生	昭和56年4月 当社入社 平成11年3月 当社大多喜副工場長 " 12年3月 当社大多喜工場長 " 13年3月 当社取締役就任 " 19年3月 当社常務取締役就任 " 23年3月 当社生産本部長 " 25年9月 当社事業開発室長 " 28年3月 当社代表取締役社長就任(現) " 28年3月 北陸ハマイ(株)取締役就任(現) " 31年3月 当社事業開発本部長(現)	(注)1	3
常務取締役	営業本部長	渡辺 宏幸	昭和32年12月10日生	昭和60年4月 当社入社 平成18年3月 当社第二営業部長 " 18年11月 当社第一営業部長 " 19年3月 当社取締役就任 " 19年3月 当社営業本部長(現) " 26年3月 当社常務取締役就任(現) " 28年11月 (株)ハマイコア理事就任(現)	(注)1	3
常務取締役	品質保証本部長 兼 生産本部長	河村 慎一	昭和35年8月26日生	昭和58年4月 当社入社 平成18年4月 当社大多喜工場技術開発部長 " 22年4月 当社大多喜副工場長 " 23年3月 当社取締役就任 " 23年3月 当社大多喜工場長 " 31年3月 当社常務取締役就任(現) " 31年3月 当社品質保証本部長(現) " 31年3月 当社生産本部長(現)	(注)1	1
常務取締役	管理本部長 兼 事業開発室長	吉村 真介	昭和35年7月15日生	平成24年8月 (株)みずほ銀行より当社へ出向 " 24年8月 当社管理本部長 " 26年3月 当社入社 " 26年3月 当社取締役就任 " 30年7月 当社管理本部長(現) " 30年7月 (株)ハマイコア監査役就任(現) " 31年3月 当社常務取締役就任(現) " 31年3月 当社事業開発室長(現)	(注)1	1
取締役	府中工場長	丸岡 信行	昭和38年3月27日生	昭和60年4月 当社入社 平成30年4月 当社府中工場副工場長 " 31年3月 当社取締役就任(現) " 31年3月 当社府中工場長(現)	(注)1	
取締役	大多喜工場長	河内 茂	昭和39年11月2日生	平成16年9月 当社入社 " 30年4月 当社大多喜工場次長 " 31年3月 当社取締役就任(現) " 31年3月 当社大多喜工場長就任(現)	(注)1	0
取締役	製品研究開発 室長	川村 信之	昭和37年12月9日生	昭和62年4月 当社入社 平成27年4月 当社事業開発室製品研究開発 部長 " 31年3月 当社取締役就任(現) " 31年3月 当社製品研究開発室長(現)	(注)1	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)		岡田 信次郎	昭和22年8月22日生	平成24年9月 " 28年3月	当社顧問就任 当社監査役就任(現)	(注)2	0
監査役 (社外)		手塚 幸一	昭和23年9月5日生	平成20年7月 " 20年8月 " 21年1月 " 23年3月	東京国税局退官 税理士登録(現) 当社顧問税理士 当社監査役就任(現)	(注)3	
監査役 (社外)		吉羽 真一郎	昭和48年11月4日生	平成12年10月 " 31年3月	弁護士登録(現) 当社監査役就任(現)	(注)3	
計							377

(注)1 . 取締役8名の任期は、平成30年12月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

(注)2 . 監査役 岡田信次郎の任期は、平成28年12月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

(注)3 . 監査役 手塚幸一、吉羽真一郎の両氏の任期は平成30年12月期に係る定時株主総会終結の時から平成34年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
なお、監査役 手塚幸一、吉羽真一郎の両氏は、社外監査役であります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は経営の透明性及び健全性を高める上で、経営チェック機能の充実が重要課題と認識しております。

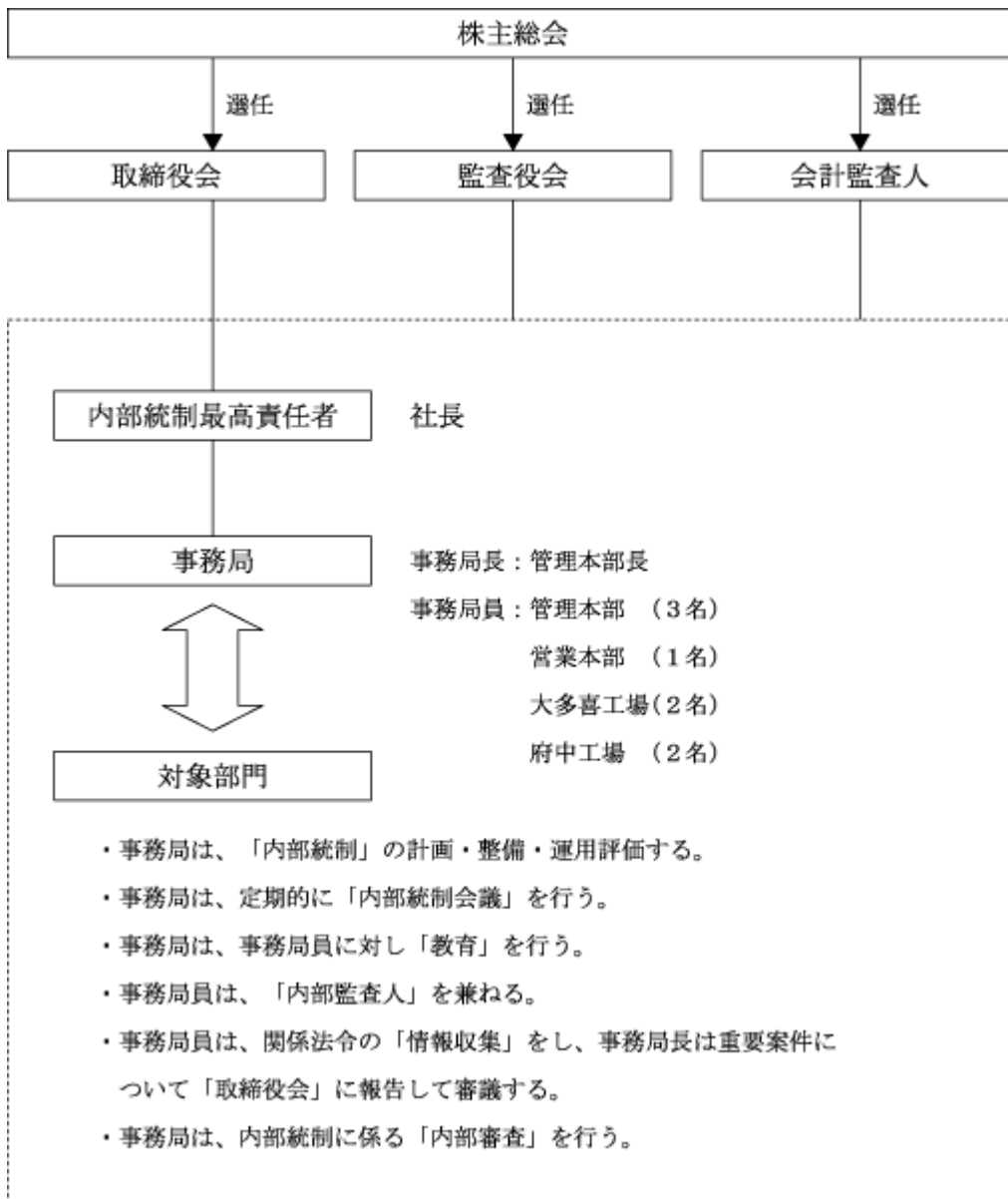
#### 企業統治の体制

##### イ. 企業統治の体制の概要

取締役会は、本報告書提出日現在、取締役8名で構成され原則月1回開催し、経営上の重要事項の意思決定を行うと共に、各取締役の業務執行を監視する機関と位置付け、運営を行っております。

また、当社は監査役制度を採用しており、本報告書提出日現在、監査役会は監査役は3名(内、社外監査役2名)で構成され、原則として3ヶ月に1回以上の開催と必要に応じた臨時開催により、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議・決議を行っております。常勤監査役は取締役会やその他の重要な会議への出席や、業務及び財産の状況調査をするとともに、必要に応じて適切な意見を述べ、取締役の業務遂行を監査しております。

当社のコーポレート・ガバナンス及び内部管理体制の概要は下記のとおりであります。



#### ロ．企業統治の体制を使用している理由

当社にとりまして、現行の企業統治の体制は、十分な監督機能を保持しつつ、経営の公正性及び透明性を確保でき、迅速且つ適正な意思決定に基づく効率的な経営の執行が実現できる体制であると考えております。

#### ハ．内部統制システム整備の状況

当社は「分掌権限規程」をはじめとした社内規程により、業務分掌や決裁事項・決裁権限の範囲を明らかにし、責任の所在を明確にすることで、内部統制システムを機能させております。

#### ニ．リスク管理体制の整備の状況

リスク管理につきましては、「リスク管理規程」に基づき、「リスク管理委員会」を設置して、各部門から適時相談を受けるとともに、重要事項については取締役会に報告・審議され、法令遵守の徹底、リスクチェックの強化に努めております。また法律上、会計上の問題につきましては弁護士、税理士および監査法人等の専門家の助言を受けております。

#### 内部監査及び監査役監査

当社の内部監査につきましては、本社管理本部が実施しており、監査役監査、ISOに基づくISO内部監査とも連携しながら行い、社内規程の整備、稟議書等社内承認制度の運用、予算実績管理、各種契約書類のチェックなどを行い、内部管理体制の強化、充実を図っております。

監査役監査につきましては、監査役制度を採用しております。本報告書提出日現在、監査役は3名（内、社外監査役2名）で構成されております。各監査役は、取締役会へ出席して意見を述べるほか、取締役の職務執行を監視しております。

監査役は監査法人より監査方針、監査計画及び監査結果の説明報告を受けると共に、適時に必要な情報交換、意見交換を行い、連携を保っております。また、内部監査人とも連携しながら相互の意見交換や監査計画及び内容について報告を行っております。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。社外監査役と当社との間には、人的関係、資本的關係、取引関係、その他の利害関係はありません。

社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針はないものの、当社の社外監査役として選任した理由は、吉羽真一郎氏は弁護士として専門的見地から企業法務に関して精通されており、手塚幸一氏は税理士として企業の財務・税務に対し精通されておりますので、両氏とも社外監査役として職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。また両氏ともその経験を活かし、客観的な立場から監査意見をいただいております。

当社は社外取締役を選任しておりませんが、現時点における当社の規模や業態等を勘案し、効率的な経営と適切な経営監視機能が働く体制を確保するには、当社の業務に精通した社内取締役による取締役会と社外監査役2名を含む3名の監査役による監査役会との構成が相応しい体制であると考えております。

役員の報酬等

イ. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労 引当金繰入額	
取締役	113,000	98,100			14,900	7
監査役 (社外監査役を除く。)	7,150	5,850			1,300	1
社外役員	9,400	8,400			1,000	2

ロ. 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ. 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(千円)	対象となる役員の員数(名)	内容
40,050	4	使用人としての基本給与

二. 役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の報酬等の額は、株主総会で承認を得た限度額の範囲内で、その具体的金額を取締役については取締役会で、監査役については監査役会の協議により決定することにしております。

株式の保有状況

イ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 40銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 2,083,441千円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
大陽日酸(株)	337,793	532,699	円滑な取引関係等の維持のため
(株)ミ ツ ウ ロ コ	388,179	343,926	円滑な取引関係等の維持のため
イハラサイエンス(株)	100,000	216,400	円滑な取引関係等の維持のため
エア・ウオーター(株)	71,655	170,395	円滑な取引関係等の維持のため
(株)C K サンエツ	45,000	161,325	円滑な取引関係等の維持のため
(株)星医療器具	33,428	140,398	円滑な取引関係等の維持のため
高圧ガス工業(株)	141,061	134,431	円滑な取引関係等の維持のため
(株)川金ホールディングス	100,000	48,800	円滑な取引関係等の維持のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	8,094	39,401	円滑な取引関係等の維持のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	168,000	34,372	円滑な取引関係等の維持のため
本田技研工業(株)	8,000	30,896	円滑な取引関係等の維持のため
野村ホールディングス(株)	42,000	27,934	円滑な取引関係等の維持のため
旭硝子(株)	5,481	26,751	円滑な取引関係等の維持のため
(株)サーラコーポレーション	35,620	25,610	円滑な取引関係等の維持のため
岩谷産業(株)	6,760	24,538	円滑な取引関係等の維持のため
(株)りそなホールディングス	29,000	19,519	円滑な取引関係等の維持のため
ソニー(株)	2,000	10,166	円滑な取引関係等の維持のため
(株)日立製作所	10,000	8,779	円滑な取引関係等の維持のため
第一生命ホールディングス(株)	3,300	7,669	円滑な取引関係等の維持のため
石油資源開発(株)	2,500	7,470	円滑な取引関係等の維持のため
デンヨー(株)	3,700	7,459	円滑な取引関係等の維持のため
白銅(株)	3,000	7,326	円滑な取引関係等の維持のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	8,000	6,611	円滑な取引関係等の維持のため
東邦アセチレン(株)	4,000	6,480	円滑な取引関係等の維持のため
高千穂交易(株)	5,000	5,835	円滑な取引関係等の維持のため
JFEコンテナ(株)	220	1,040	円滑な取引関係等の維持のため
キッツ(株)	1,000	873	円滑な取引関係等の維持のため
日本ドライケミカル(株)	289	721	円滑な取引関係等の維持のため
(株)宮入バルブ製作所	253	506	円滑な取引関係等の維持のため
中国工業(株)	100	89	円滑な取引関係等の維持のため

投資株式のうち持株会については、1株未満の株式数は切り捨て表示しております。

(当事業年度)  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
大陽日酸(株)	341,893	614,039	円滑な取引関係等の維持のため
(株)ミ ツ ウ ロ コ	389,426	276,103	円滑な取引関係等の維持のため
イハラサイエンス(株)	100,000	163,100	円滑な取引関係等の維持のため
(株)星医療酸器	33,816	144,055	円滑な取引関係等の維持のため
高压ガス工業(株)	145,946	125,075	円滑な取引関係等の維持のため
エア・ウォーター(株)	73,391	122,195	円滑な取引関係等の維持のため
(株)C K サンエツ	45,000	98,550	円滑な取引関係等の維持のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	8,094	29,502	円滑な取引関係等の維持のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	168,000	28,610	円滑な取引関係等の維持のため
岩谷産業(株)	6,760	24,809	円滑な取引関係等の維持のため
(株)川金ホールディングス	100,000	23,300	円滑な取引関係等の維持のため
本田技研工業(株)	8,000	23,156	円滑な取引関係等の維持のため
(株)サーラコーポレーション	37,370	22,384	円滑な取引関係等の維持のため
A G C(株)	5,734	19,667	円滑な取引関係等の維持のため
野村ホールディングス(株)	42,000	17,673	円滑な取引関係等の維持のため
(株)りそなホールディングス	29,000	15,332	円滑な取引関係等の維持のため
ソニー(株)	2,000	10,652	円滑な取引関係等の維持のため
(株)日立製作所	2,000	5,871	円滑な取引関係等の維持のため
第一生命ホールディングス(株)	3,300	5,669	円滑な取引関係等の維持のため
東邦アセチレン(株)	4,000	5,500	円滑な取引関係等の維持のため
デンヨー(株)	3,700	4,983	円滑な取引関係等の維持のため
石油資源開発(株)	2,500	4,930	円滑な取引関係等の維持のため
高千穂交易(株)	5,000	4,780	円滑な取引関係等の維持のため
白銅(株)	3,000	4,767	円滑な取引関係等の維持のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	8,000	4,303	円滑な取引関係等の維持のため
キッツ(株)	1,000	858	円滑な取引関係等の維持のため
日本ドライケミカル(株)	685	798	円滑な取引関係等の維持のため
JFEコンテナ(株)	220	745	円滑な取引関係等の維持のため
(株)宮入バルブ製作所	2,000	210	円滑な取引関係等の維持のため
中国工業(株)	100	49	円滑な取引関係等の維持のため

投資株式のうち持株会については、1株未満の株式数は切り捨て表示しております。

八. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社は、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査を監査法人まほろばに委嘱しております。なお、当社と監査法人及び業務執行社員との間には、特別な利害関係はありません。

当年度において、当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、土屋洋泰と関根一彦の両氏であり、監査法人まほろばに所属しております。また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名であります。



#### 取締役会で決議できる株主総会決議事項

##### イ. 自己の株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した資本政策を機動的に遂行することを可能とする目的として、会社法第165条第2項の規定により取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式の取得することができる旨を定款で定めております。

##### ロ. 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、毎年6月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）をすることができる旨を定款で定めております。

##### ハ. 取締役および監査役の実任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役および監査役（取締役および監査役であった者を含む）の損害賠償責任を法令の限度において取締役会の決議によって免除することができる旨を定款で定めております。

##### ニ. 社外取締役および社外監査役の実任免除

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役および社外監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる。ただし、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額とする旨を定款に定めております。

#### 取締役の員数

当社の取締役は、8名以内とする旨を定款で定めております。

#### 取締役の選任の決議事項

議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	20,000		20,000	
連結子会社				
計	20,000		20,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は監査公認会計士等に対する監査報酬を決定するにあたり、監査公認会計士等より提示される監査計画の内容をもとに、監査工数及び当社の規模・事業の特性等を勘案し、監査公認会計士等と協議のうえ決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)の財務諸表について、監査法人まほろばの監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、監査法人と緊密に連携し、各種セミナー等へ積極的に参加し、また各種会計関連出版物等を購読しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,833,617	3,623,711
受取手形	<sup>4</sup> 1,112,234	<sup>4</sup> 1,113,651
売掛金	1,818,507	1,925,857
有価証券	4,999	168,235
商品	1,011	1,877
製品	504,235	577,995
原材料	164,271	223,326
仕掛品	831,682	1,022,483
貯蔵品	39,607	43,821
前渡金	49,146	49,135
繰延税金資産	27,082	42,321
未収消費税等	160,751	-
その他	25,789	12,589
貸倒引当金	63	64
流動資産合計	8,572,874	8,804,939
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物（純額）	<sup>2</sup> 3,477,568	<sup>2</sup> 3,417,335
構築物（純額）	<sup>2</sup> 103,996	<sup>2</sup> 94,819
機械及び装置（純額）	835,638	778,462
車両運搬具（純額）	5,679	1,973
工具、器具及び備品（純額）	60,450	70,621
土地	<sup>2</sup> 328,422	<sup>2</sup> 328,312
リース資産（純額）	62,773	70,453
建設仮勘定	138,208	347,639
有形固定資産合計	<sup>3</sup> 5,012,738	<sup>3</sup> 5,109,618
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	1,023	9,609
電話加入権	2,412	2,412
リース資産	15,915	8,751
借地権	360	360
無形固定資産合計	19,711	21,133

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	2,851,126	2,430,871
関係会社株式	1 7,050	1 7,050
出資金	310	310
長期前払費用	1,254	4,742
会員権	17,739	17,739
保険積立金	451,946	456,753
繰延税金資産		29,335
その他	103,456	99,085
貸倒引当金	240	250
投資その他の資産合計	3,432,643	3,045,637
固定資産合計	8,465,093	8,176,390
資産合計	17,037,967	16,981,329

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	4 1,435,709	4 1,432,018
買掛金	472,594	456,938
未払金	151,231	91,721
未払法人税等	91,615	91,491
未払消費税等		161,183
未払費用	50,341	55,237
前受金	48,660	48,660
預り金	33,717	38,848
リース債務	30,569	36,323
賞与引当金	40,900	48,000
設備関係支払手形	4 178,645	4 95,423
流動負債合計	2,533,984	2,555,846
固定負債		
役員退職慰労引当金	259,307	276,507
退職給付に係る負債	633,910	644,471
長期預り保証金	2 712,252	2 711,869
リース債務	50,688	73,431
繰延税金負債	54,026	-
固定負債合計	1,710,184	1,706,279
負債合計	4,244,168	4,262,126
純資産の部		
株主資本		
資本金	395,307	395,307
資本剰余金	648,247	648,247
利益剰余金	11,633,533	11,782,532
自己株式	722,497	722,536
株主資本合計	11,954,590	12,103,550
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	803,013	610,607
為替換算調整勘定	36,194	5,044
その他の包括利益累計額合計	839,207	615,652
純資産合計	12,793,798	12,719,203
負債純資産合計	17,037,967	16,981,329

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)
売上高		
製品売上高	6,741,905	6,874,845
商品売上高	183,152	135,741
加工屑売上高	851,060	865,666
商品及び製品売上高合計	7,776,117	7,876,253
不動産賃貸収入	539,233	576,669
売上高合計	8,315,350	8,452,922
売上原価	1 6,644,991	1 6,862,075
売上総利益	1,670,358	1,590,847
販売費及び一般管理費		
運賃	86,777	88,814
役員報酬	132,876	133,770
給料	224,995	257,980
賞与	58,756	68,699
賞与引当金繰入額	9,734	11,376
退職給付費用	10,753	10,165
役員退職慰労引当金繰入額	17,200	17,200
減価償却費	22,159	22,408
その他	570,384	499,294
販売費及び一般管理費合計	1 1,133,637	1 1,109,710
営業利益	536,721	481,137
営業外収益		
受取利息	3,901	3,906
受取配当金	44,837	43,088
為替差益	44,048	
雑収入	19,112	16,960
営業外収益合計	111,900	63,954
営業外費用		
投資有価証券評価損	313	
売上割引	3,618	5,685
為替差損		21,944
雑損失	8,815	358
営業外費用合計	12,748	27,988
経常利益	635,873	517,103
特別利益		
関係会社株式売却益	13,184	
事業税還付金	1,265	143
特別利益合計	14,450	143

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
特別損失		
固定資産除却損	2 821	2 2,381
投資有価証券売却損	7,710	
90周年記念費用	18,472	
その他	2,347	
特別損失合計	29,351	2,381
税金等調整前当期純利益	620,972	514,865
法人税、住民税及び事業税	233,359	212,736
法人税等調整額	46,745	13,686
法人税等合計	186,613	199,050
当期純利益	434,358	315,815
非支配株主に帰属する当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益	434,358	315,815



【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
当期純利益	434,358	315,815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	326,907	192,406
為替換算調整勘定	15,202	31,149
その他の包括利益合計	342,109	223,555
包括利益	776,468	92,259
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	776,468	92,259
非支配株主に係る包括利益		

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	395,307	648,247	11,384,257	511,029	11,916,782
当期変動額					
剰余金の配当			185,083		185,083
親会社株主に帰属する当期純利益			434,358		434,358
自己株式の取得				211,468	211,468
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	249,275	211,468	37,807
当期末残高	395,307	648,247	11,633,533	722,497	11,954,590

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	476,106	20,991	497,098	12,413,881
当期変動額				
剰余金の配当				185,083
親会社株主に帰属する当期純利益				434,358
自己株式の取得				211,468
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	326,907	15,202	342,109	342,109
当期変動額合計	326,907	15,202	342,109	379,917
当期末残高	803,013	36,194	839,207	12,793,798

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	395,307	648,247	11,633,533	722,497	11,954,590
当期変動額					
剰余金の配当			166,815		166,815
親会社株主に帰属する当期純利益			315,815		315,815
自己株式の取得				39	39
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	148,999	39	148,959
当期末残高	395,307	648,247	11,782,532	722,536	12,103,550

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	803,013	36,194	839,207	12,793,798
当期変動額				
剰余金の配当				166,815
親会社株主に帰属する当期純利益				315,815
自己株式の取得				39
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	192,406	31,149	223,555	223,555
当期変動額合計	192,406	31,149	223,555	74,595
当期末残高	610,607	5,044	615,652	12,719,203

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	620,972	514,865
減価償却費	380,279	437,537
貸倒引当金の増減額（ は減少）	65	11
賞与引当金の増減額（ は減少）	3,400	7,100
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	38,191	10,561
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	17,200	17,200
受取利息及び受取配当金	48,739	46,994
為替差損益（ は益）	433	586
関係会社株式売却損益（ は益）	13,184	
投資有価証券売却損益（ は益）	7,710	
投資有価証券評価損益（ は益）	313	
固定資産除却損	821	2,381
たな卸資産の増減額（ は増加）	187,489	328,694
その他の営業外損益（ は益）	4,718	4,807
売上債権の増減額（ は増加）	213,258	108,766
仕入債務の増減額（ は減少）	342,907	19,346
前渡金の増減額（ は増加）	342	9
未払金の増減額（ は減少）	41,734	7,862
未払費用の増減額（ は減少）	9,920	4,896
未払又は未収消費税等の増減額	212,106	356,473
預り金の増減額（ は減少）	827	5,131
預り保証金の増減額（ は減少）	91,080	383
売上割引料	3,618	5,685
未収入金の増減額（ は増加）	1,227	2,292
その他	2,627	1,409
小計	860,882	865,012
利息及び配当金の受取額	48,739	46,994
法人税等の支払額又は還付額（ は支払）	318,359	198,757
売上割引料の支払額	3,618	5,685
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>587,643</b>	<b>707,562</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,019,638	676,351
無形固定資産の取得による支出		11,089
投資有価証券の取得による支出	18,974	20,286
投資有価証券の売却による収入	84,264	1,883
関係会社株式の売却による収入	13,952	
その他	5,005	27
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>935,390</b>	<b>705,816</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	29,507	37,766
自己株式の取得による支出	211,633	39
配当金の支払額	185,083	166,815
財務活動によるキャッシュ・フロー	426,223	204,621
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,545	5,315
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	764,425	208,190
現金及び現金同等物の期首残高	4,603,042	3,838,617
現金及び現金同等物の期末残高	1 3,838,617	1 3,630,426

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 1社

主要な子会社の名称 株式会社ハマイ코리아

(2) 非連結子会社

会社名 株式会社スリーアロー

非連結子会社について連結の範囲から除外した理由

非連結子会社は、小規模であり総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社

持分法を適用しない非連結子会社

会社名 株式会社スリーアロー

持分法を適用しない関連会社

会社名 北陸ハマイ(株)

四国ハマイ(株)

非連結子会社及び関連会社について持分法を適用しない理由

持分法を適用しない会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移

動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

によっております。

商品

先入先出法

製品・原材料・仕掛品

総平均法

貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社は定率法によっております。なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一基準によっております。

ただし、府中ショッピングセンター施設は、法人税法の規定に基づく旧定額法を採用しております。

なお、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、法人税法に定める定額法を採用しております。

また、在外連結子会社は建物については定額法、それ以外の有形固定資産については定率法を採用しております。

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

長期前払費用

均等償却によっております。なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額から中小企業退職金共済制度による給付見込額等を控除して退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結会計年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産および負債は、子会社の事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は事業年度末日の直物為替相場により円貨換算し、換算差額は、純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

当社の消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年12月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。



(連結貸借対照表関係)

- 1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
関係会社株式	7,050千円	7,050千円

- 2 担保資産及び担保付債務

担保に供されている資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供されている資産

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
建物	734,732千円	684,671千円
構築物	7,716 "	6,356 "
土地	22,055 "	22,055 "
計	764,504千円	713,083千円

担保付債務

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
長期預り保証金	500,000千円	500,000千円

- 3 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	9,633,158千円	10,028,709千円

- 4 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しています。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
受取手形	109,520千円	137,000千円
支払手形	279,565 "	337,045 "
設備関係支払手形	28,344 "	39,386 "

(連結損益計算書関係)

- 1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
	243,097千円	276,517千円

- 2 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
建物	1千円	千円
機械及び装置、車両運搬具	301 "	1,604 "
その他(工具、器具及び備品)	520 "	260 "
リース資産(有形)	"	516 "
計	821千円	2,381千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	463,471千円	277,321千円
組替調整額	7,710 "	
税効果調整前	471,181千円	277,321千円
税効果額	144,273 "	84,915 "
その他有価証券評価差額金	326,907千円	192,406千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	15,202千円	31,149千円
組替調整額		
税効果調整前	15,202千円	31,149千円
税効果額		
為替換算調整勘定	15,202千円	31,149千円
その他の包括利益合計	342,109千円	223,555千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数ならびに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(株)	7,424,140			7,424,140
自己株式				
普通株式(株)	569,213	182,300		751,513

(注) 普通株式の自己株式数の増加182,300株は、平成29年11月14日開催の取締役会の決議による取得であります。

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年3月30日 定時株主総会	普通株式	116,533	17	平成28年12月31日	平成29年3月31日
平成29年8月10日 取締役会	普通株式	68,549	10	平成29年6月30日	平成29年9月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年3月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	100,089	15	平成29年12月31日	平成30年3月30日

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数ならびに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(株)	7,424,140			7,424,140
自己株式				
普通株式(株)	751,513	36		751,549

(注) 普通株式の自己株式数の増加36株は単元未満株式の買い取りによるものであります

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年3月29日 定時株主総会	普通株式	100,089	15	平成29年12月31日	平成30年3月30日
平成30年8月10日 取締役会	普通株式	66,726	10	平成30年6月30日	平成30年9月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成31年3月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	100,088	15	平成30年12月31日	平成31年3月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
現金及び預金	3,833,617千円	3,623,711千円
有価証券	4,999 "	168,235 "
小計	3,838,617 "	3,791,946 "
預入期間が3か月を超える定期預金	"	"
投資期間が3か月を超える有価証券	"	161,520 "
現金及び現金同等物	3,838,617千円	3,630,426千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

工具、器具及び備品

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(平成29年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年12月31日)

該当事項はありません。

(2) 支払リース料、減価償却費相当額

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
支払リース料	690	
減価償却費相当額	690	

(3) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金を自己資金、及び必要に応じ長期借入により調達しております。一時的な余資は運転資金として利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外に事業展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、保有目的の分類における「その他有価証券」に該当する債券及び株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、流動性リスクに晒されておりますが、ほとんどが5ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、社内規定に従い、営業債権について営業担当部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスクの管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

各部門からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などによりリスク管理をしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成29年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,833,617	3,833,617	
(2) 受取手形	1,112,234	1,112,234	
(3) 売掛金	1,818,507	1,818,507	
(4) 有価証券及び投資有価証券	2,570,341	2,570,341	
資産計	9,334,701	9,334,701	
(1) 支払手形	1,435,709	1,435,709	
(2) 買掛金	472,594	472,594	
負債計	1,908,303	1,908,303	

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形、(2) 買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額  
(単位：千円)

区分	平成29年12月31日
非上場株式	285,784

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,833,617			
受取手形	1,112,234			
売掛金	1,818,507			
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
その他有価証券のうち満期があるもの(公社債)		200,000		
その他有価証券のうち満期があるもの(その他)		246,050		
合計	6,764,359	446,050		



当連結会計年度(平成30年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,623,711	3,623,711	
(2) 受取手形	1,113,651	1,113,651	
(3) 売掛金	1,925,857	1,925,857	
(4) 有価証券及び投資有価証券	2,317,357	2,317,357	
資産計	8,980,576	8,980,576	
(1) 支払手形	1,432,018	1,432,018	
(2) 買掛金	456,938	456,938	
負債計	1,888,956	1,888,956	

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形、(2) 買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額  
(単位：千円)

区分	平成30年12月31日
非上場株式	281,749

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

当連結会計年度(平成30年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,623,711			
受取手形	1,113,651			
売掛金	1,925,857			
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
其他有価証券のうち満期があるもの(公社債)		205,560		
其他有価証券のうち満期があるもの(その他)	161,520	87,910		
合計	6,824,739	293,470		

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

3. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年12月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	2,040,958	837,120	1,203,838
債券	207,710	200,400	7,310
その他	46,254	42,289	3,965
小計	2,294,923	1,079,810	1,215,113
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	7,510	9,801	2,290
債券			
その他	267,907	324,225	56,317
小計	275,418	334,026	58,607
合計	2,570,341	1,413,836	1,156,505

非上場株式(連結貸借対照表計上額285,784千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

当連結会計年度(平成30年12月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,706,943	759,864	947,079
債券	205,560	200,400	5,160
その他			
小計	1,912,503	960,264	952,239
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	94,748	107,031	12,283
債券			
その他	310,105	366,525	56,420
小計	404,853	473,557	68,704
合計	2,317,357	1,433,822	883,535

非上場株式(連結貸借対照表計上額281,749千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

4. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式			
債券			
その他	88,228		7,710
合計	88,228		7,710

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職一時金制度の他、退職金規程に基づき中小企業退職金共済制度及び全日本パルプ厚生年金基金に加入し、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。なお、連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	595,719	633,910
退職給付費用	75,563	35,226
退職給付の支払額	28,182	15,535
制度への拠出額	9,190	9,130
退職給付に係る負債の期末残高	633,910	644,471

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	712,287	750,010
年金資産	78,376	105,538
	633,910	644,471
非積立型制度の退職給付		
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	633,910	644,471
退職給付に係る負債	633,910	644,471
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	633,910	644,471

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用      前連結会計年度75,563千円      当連結会計年度35,226千円

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
役員退職慰労引当金	79,399千円	84,666千円
退職給付に係る負債	188,249	189,766
貸倒引当金繰入限度超過額	93	96
賞与引当金	12,621	14,697
未払事業税	5,360	7,012
投資有価証券評価損	51,570	51,570
厚生費否認額	5,914	5,309
会員権評価損	1,894	1,894
営業権	138	
未払法定福利費	1,780	2,072
連結会社間内部利益消去	1,081	1,288
その他	266	235
<b>繰延税金資産合計</b>	<b>348,370</b>	<b>358,609</b>
<b>繰延税金負債</b>		
買換資産圧縮積立金認容	9,329	8,778
特別償却準備金	11,585	8,688
その他有価証券評価差額金	354,400	269,485
<b>繰延税金負債合計</b>	<b>375,314</b>	<b>286,952</b>
<b>繰延税金資産(負債)の純額</b>	<b>26,943</b>	<b>71,657</b>

(注) 各連結会計年度における繰延税金資産及び繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
流動資産 繰延税金資産	27,082千円	42,321千円
固定資産 繰延税金資産		29,335
固定負債 繰延税金負債	54,026	

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度（平成29年12月31日）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

当連結会計年度（平成30年12月31日）

法定実効税率	30.62 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.24
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.65
住民税均等割額	0.55
連結子会社の欠損金影響額	7.63
その他	0.73
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.66 %

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当社及び連結子会社は、賃貸借契約に基づき使用する建物及び土地において、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、そのいずれにつきましても、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、また、将来における移転予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができず、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成29年1月1日至平成29年12月31日)

当社では、東京都府中市その他の地域において、賃貸用の建物(土地を含む)を所有しております。平成29年12月期における当該賃貸等不動産に関する営業利益は342,907千円(賃貸収益は売上高・不動産賃貸収入に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

		前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	981,201
	期中増減額	1,579,439
	期末残高	2,560,640
期末時価		6,339,000

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2. 当連結会計年度増減額は有料老人ホーム建設に伴う固定資産取得額1,659,701千円、有料老人ホーム建設用土地の営業用資産からの振替額34,625千円及び減価償却費による減少額114,888千円であります。
3. 当連結会計年度末の賃貸等不動産の時価につきましては、主として社外の不動産鑑定士の意見を参考に、「不動産鑑定評価基準」に準拠して自社で算定した金額であります。

当連結会計年度(自平成30年1月1日至平成30年12月31日)

当社では、東京都府中市その他の地域において、賃貸用の建物(土地を含む)を所有しております。平成30年12月期における当該賃貸等不動産に関する営業利益は363,258千円(賃貸収益は売上高・不動産賃貸収入に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

		当連結会計年度 (自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	2,560,640
	期中増減額	124,857
	期末残高	2,435,782
期末時価		6,122,000

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2. 当連結会計年度増減額は、減価償却費による減少額124,857千円であります。
3. 当連結会計年度末の賃貸等不動産の時価につきましては、主として社外の不動産鑑定士の意見を参考に、「不動産鑑定評価基準」に準拠して自社で算定した金額であります。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、本社に製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは事業本部を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「バルブ事業」及び「不動産賃貸事業」の2つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主なサービスは、次のとおりであります。

名称	区分に属する主要な事業内容
バルブ事業	・精密機械機器の製造および販売 ・各種弁類の製造および販売 ・高圧ガス関連機器の製造および販売
不動産賃貸事業	・不動産の賃貸

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

なお、セグメント間の内部売上高及び振替高はありません。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表計上額 (注) 2
	バルブ事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,776,117	539,233	8,315,350		8,315,350
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	7,776,117	539,233	8,315,350		8,315,350
セグメント利益	193,813	342,907	536,721		536,721
セグメント資産	13,904,185	2,560,640	16,464,825	573,141	17,037,967
その他の項目					
減価償却費	265,391	114,888	380,279		380,279
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	815,156	1,659,701	2,474,858		2,474,858

(注) 1 セグメント資産の調整額は、全社資産に係るものであり、その内容は報告セグメントに帰属しない投資資産であります。

(注) 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表計上額 (注) 2
	バルブ事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,876,253	576,669	8,452,922		8,452,922
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	7,876,253	576,669	8,452,922		8,452,922
セグメント利益	117,878	363,258	481,137		481,137
セグメント資産	13,971,967	2,435,782	16,407,750	573,578	16,981,329
その他の項目					
減価償却費	312,680	124,857	437,537		437,537
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	360,058		360,058		360,058

(注) 1 セグメント資産の調整額は、全社資産に係るものであり、その内容は報告セグメントに帰属しない投資資産であります。

(注) 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

国内の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	韓国	合計
4,543,815	468,922	5,012,738

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

国内の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	韓国	合計
4,678,874	430,744	5,109,618

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等  
該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	北陸ハマイ(株)	石川県 金沢市	10,000	各種バルブの 販売	(所有) 直接 30	製品の販売 役員の兼任	各種バルブの 製造・販売	157,786	受取手形 売掛金	46,149 26,718
関連会社	四国ハマイ(株)	香川県 高松市	10,000	各種バルブの 販売	(所有) 直接 40	製品の販売 役員の兼任	各種バルブの 製造・販売	133,412	受取手形 売掛金	40,718 36,179

取引条件及び取引条件の決定方針等

価格その他取引条件は市場の実勢価格を考慮し毎期決定しております。

(注) 上記の金額のうち取引金額には、消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	北陸ハマイ(株)	石川県 金沢市	10,000	各種バルブの 販売	(所有) 直接 30	製品の販売 役員の兼任	各種バルブの 製造・販売	140,281	受取手形 売掛金	39,234 21,299
関連会社	四国ハマイ(株)	香川県 高松市	10,000	各種バルブの 販売	(所有) 直接 40	製品の販売 役員の兼任	各種バルブの 製造・販売	120,811	受取手形 売掛金	44,576 28,379

取引条件及び取引条件の決定方針等

価格その他取引条件は市場の実勢価格を考慮し毎期決定しております。

(注) 上記の金額のうち取引金額には、消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	
1株当たり純資産額	1,917円36銭	1株当たり純資産額	1,906円19銭
1株当たり当期純利益	63円62銭	1株当たり当期純利益	47円33銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が無いため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が無いため記載していません。	

(注) 1 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
	1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	434,358	315,815
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	434,358	315,815
普通株式の期中平均株式数(株)	6,826,881	6,672,618

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金				
1年以内に返済予定のリース債務	30,569	36,323		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)				
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	50,688	73,431		平成32年1月1日 ~平成35年11月28日
その他有利子負債				
合計	81,257	109,754		

(注) 1 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	29,289	22,026	15,634	6,480

2 「平均利率」については、期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上している為、「平均利率」を記載しておりません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	2,117,633	4,137,329	6,044,786	8,452,922
税金等調整前四半期(当期)純利益 (千円)	183,466	287,757	382,581	514,865
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	113,196	171,462	228,017	315,815
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	16.96	25.70	34.17	47.33

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	16.96	8.74	8.47	13.16

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,761,162	3,532,331
受取手形	2 1,108,856	2 1,105,182
売掛金	1,776,490	1,828,634
有価証券	4,999	168,235
商品	1,011	970
製品	479,238	568,109
原材料	109,377	142,394
仕掛品	810,007	990,806
貯蔵品	37,729	41,502
前渡金	49,146	49,135
繰延税金資産	26,001	41,033
未収消費税等	160,751	-
その他	10,652	9,238
貸倒引当金	63	64
流動資産合計	8,335,360	8,477,510
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1 3,149,064	1 3,089,607
構築物（純額）	1 103,996	1 94,819
機械及び装置（純額）	716,498	691,824
車両運搬具（純額）	2,391	908
工具、器具及び備品（純額）	53,519	65,657
土地	1 317,363	1 317,963
リース資産（純額）	62,773	70,453
建設仮勘定	138,208	347,639
有形固定資産合計	4,543,815	4,678,874
無形固定資産		
ソフトウェア	325	9,464
電話加入権	2,412	2,412
リース資産	15,915	8,751
借地権	360	360
無形固定資産合計	19,013	20,989



(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,851,126	2,430,871
関係会社株式	1,014,505	315,505
出資金	310	310
関係会社長期貸付金	280,000	480,000
長期前払費用	1,254	4,742
会員権	17,739	17,739
保険積立金	451,946	456,753
繰延税金資産	-	29,335
その他	35,826	36,026
貸倒引当金	240	250
投資その他の資産合計	4,652,468	3,771,033
固定資産合計	9,215,297	8,470,897
資産合計	17,550,658	16,948,407
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	2 1,435,709	2 1,432,018
買掛金	470,611	455,790
未払金	149,282	86,539
未払法人税等	91,615	91,491
未払消費税等	-	163,012
未払費用	44,869	49,323
前受金	48,660	48,660
預り金	32,035	37,388
リース債務	30,569	36,323
賞与引当金	40,900	48,000
設備関係支払手形	2 178,645	2 95,423
流動負債合計	2,522,897	2,543,971
<b>固定負債</b>		
退職給付引当金	614,793	619,747
役員退職慰労引当金	259,307	276,507
長期預り保証金	1 712,252	1 711,869
リース債務	50,688	73,431
繰延税金負債	54,026	-
固定負債合計	1,691,068	1,681,555
負債合計	4,213,965	4,225,527

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	395,307	395,307
資本剰余金		
資本準備金	477,917	477,917
その他資本剰余金	170,330	170,330
資本剰余金合計	648,247	648,247
利益剰余金		
利益準備金	98,826	98,826
その他利益剰余金		
買換資産圧縮積立金	21,065	19,890
特別償却準備金	26,159	19,687
別途積立金	9,800,000	10,000,000
繰越利益剰余金	2,266,570	1,652,847
利益剰余金合計	12,212,621	11,791,252
自己株式	722,497	722,536
株主資本合計	12,533,679	12,112,270
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	803,013	610,609
評価・換算差額等合計	803,013	610,609
純資産合計	13,336,692	12,722,880
負債純資産合計	17,550,658	16,948,407

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
<b>売上高</b>		
製品売上高	6,717,048	6,833,215
商品売上高	56,396	27,090
加工屑売上高	851,060	865,666
商品及び製品売上高合計	7,624,505	7,725,972
不動産賃貸収入	539,233	576,669
売上高合計	8,163,738	8,302,642
<b>売上原価</b>		
製品期首たな卸高	391,017	479,238
商品期首たな卸高	951	1,011
当期製品製造原価	6,364,535	6,598,320
当期商品仕入高	49,608	21,377
合計	6,806,113	7,099,947
製品期末たな卸高	479,238	568,109
商品期末たな卸高	1,011	970
他勘定振替高	-	2,555
商品及び製品売上原価	6,325,864	6,528,312
不動産賃貸原価	196,325	213,410
売上原価合計	6,522,189	6,741,722
売上総利益	1,641,548	1,560,919
<b>販売費及び一般管理費</b>		
運賃	85,637	88,189
役員報酬	109,950	112,350
給料	209,041	242,131
賞与	58,756	68,372
賞与引当金繰入額	9,734	11,376
退職給付費用	8,245	7,230
役員退職慰労引当金繰入額	17,200	17,200
減価償却費	14,933	15,643
その他	481,731	412,946
販売費及び一般管理費合計	995,231	975,438
営業利益	646,317	585,480
<b>営業外収益</b>		
受取利息	9,963	7,846
受取配当金	44,837	43,088
為替差益	5,218	-
雑収入	20,440	16,545
営業外収益合計	80,459	67,479
<b>営業外費用</b>		
投資有価証券評価損	313	-
売上割引	3,618	5,685
為替差損	-	1,456
雑損失	8,750	-
営業外費用合計	12,682	7,142
経常利益	714,094	645,817

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
<b>特別利益</b>		
事業税還付金	1,265	143
関係会社株式売却益	13,184	
特別利益合計	14,450	143
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	1,821	1,257
投資有価証券売却損	7,710	-
90周年記念費用	18,472	-
関係会社株式評価損	-	699,000
その他	2,347	-
特別損失合計	29,351	701,257
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	699,193	55,296
法人税、住民税及び事業税	233,359	212,736
法人税等調整額	46,712	13,479
法人税等合計	186,646	199,256
当期純利益又は当期純損失( )	512,547	254,553

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	395,307	477,917	170,330	648,247
当期変動額				
剰余金の配当				
買換資産圧縮積立金の変動額				
特別償却準備金の変動額				
別途積立金の積立				
当期純利益				
自己株式の取得				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	395,307	477,917	170,330	648,247

	株主資本					
	利益準備金	利益剰余金				利益剰余金合計
		その他利益剰余金				
		買換資産圧縮積立金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	98,826	17,708	30,438	9,600,000	2,138,183	11,885,157
当期変動額						
剰余金の配当					185,083	185,083
買換資産圧縮積立金の変動額		3,356			3,356	-
特別償却準備金の変動額			4,279		4,279	-
別途積立金の積立				200,000	200,000	-
当期純利益					512,547	512,547
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	3,356	4,279	200,000	128,386	327,464
当期末残高	98,826	21,065	26,159	9,800,000	2,266,570	12,212,621

(単位：千円)

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評 価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	511,029	12,417,682	476,106	476,106	12,893,789
当期変動額					
剰余金の配当		185,083			185,083
買換資産圧縮積立金 の変動額		-			-
特別償却準備金の変 動額		-			-
別途積立金の積立		-			-
当期純利益		512,547			512,547
自己株式の取得	211,468	211,468			211,468
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）			326,907	326,907	326,907
当期変動額合計	211,468	115,996	326,907	326,907	442,903
当期末残高	722,497	12,533,679	803,013	803,013	13,336,692

当事業年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	395,307	477,917	170,330	648,247
当期変動額				
剰余金の配当				
買換資産圧縮積立金の 変動額				
特別償却準備金の変 動額				
別途積立金の積立				
当期純損失( )				
自己株式の取得				
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	395,307	477,917	170,330	648,247

	株主資本					
	利益準備金	利益剰余金				利益剰余金合計
		その他利益剰余金				
		買換資産圧縮積立 金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	98,826	21,065	26,159	9,800,000	2,266,570	12,212,621
当期変動額						
剰余金の配当					166,815	166,815
買換資産圧縮積立金の 変動額		1,174			1,174	-
特別償却準備金の変 動額			6,471		6,471	-
別途積立金の積立				200,000	200,000	-
当期純損失( )					254,553	254,553
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)						
当期変動額合計	-	1,174	6,471	200,000	613,723	421,368
当期末残高	98,826	19,890	19,687	10,000,000	1,652,847	11,791,252

(単位：千円)

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評 価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	722,497	12,533,679	803,013	803,013	13,336,692
当期変動額					
剰余金の配当		166,815			166,815
買換資産圧縮積立金 の変動額		-			-
特別償却準備金の変 動額		-			-
別途積立金の積立		-			-
当期純損失( )		254,553			254,553
自己株式の取得	39	39			39
株主資本以外の項目 の当期変動額(純 額)			192,403	192,403	192,403
当期変動額合計	39	421,408	192,403	192,403	613,812
当期末残高	722,536	12,112,270	610,609	610,609	12,722,880



【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

商品

先入先出法

製品・原材料・仕掛品

総平均法

貯蔵品

最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一基準によっております。

ただし、府中ショッピングセンター施設は、法人税法の規定に基づく旧定額法を採用しております。

なお、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、法人税法に定める定額法を採用しております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

長期前払費用

均等償却によっております。なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理してまいります。

## 5 引当金の計上基準

### 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しておりません。

### 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付に係る期末自己都合要支給額から中小企業退職金共済制度による給付見込額を控除して退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

### 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

## 6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

### (会計方針の変更)

該当事項はありません。

### (表示方法の変更)

該当事項はありません。

### (追加情報)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供されている資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供されている資産

	前事業年度 (平成29年12月31日)		当事業年度 (平成30年12月31日)	
土地	22,055千円	(共同担保)	22,055千円	(共同担保)
建物	734,732 "	( " )	684,671 "	( " )
構築物	7,716 "	( " )	6,356 "	( " )
計	764,504千円		691,027千円	

担保付債務

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
長期預り保証金	500,000千円	500,000千円

2 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しています。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
受取手形	109,520千円	137,000千円
支払手形	279,565 "	337,045 "
設備関係支払手形	28,344 "	39,386 "

(損益計算書関係)

1 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
建物設備	0千円	千円
機械及び装置	301 "	1,480 "
工具、器具及び備品	520 "	260 "
リース資産	"	516 "
計	821千円	2,257千円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価を記載しておりません。

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	前事業年度(平成29年12月31日) (千円)	当事業年度(平成30年12月31日) (千円)
(1) 子会社株式	1,007,455	308,455
(2) 関連会社株式	7,050	7,050
計	1,014,505	315,505

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
役員退職慰労引当金	79,399千円	84,666千円
退職給付引当金	188,249	189,766
貸倒引当金繰入限度超過額	93	96
会員権評価損	1,894	1,894
賞与引当金	12,621	14,697
未払事業税	5,360	7,012
投資有価証券評価損	51,570	51,570
厚生費否認額	5,914	5,309
未払法定福利費	1,780	2,072
営業権	138	
その他	266	235
繰延税金資産合計	347,289	357,321
<b>繰延税金負債</b>		
買換資産圧縮積立金	9,329	8,778
特別償却準備金	11,585	8,688
その他有価証券評価差額金	354,400	269,485
繰延税金負債合計	375,314	286,952
繰延税金資産(負債)の純額	28,025	70,368

(注) 各事業年度における繰延税金資産及び繰延税金負債の純額は貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
流動資産 繰延税金資産	26,001千円	41,033千円
固定資産 繰延税金資産		29,335
固定資産 繰延税金負債	54,026	

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった  
主要な項目別の内訳

前事業年度（平成29年12月31日）

法定実効税率	30.86 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.20
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.35
住民税均等割額	0.41
評価性引当額の増減	4.87
その他	0.56
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.69 %

当事業年度（平成30年12月31日）

税引前当期純損失を計上しているため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	6,623,218	110,002		6,733,220	3,643,613	169,458	3,089,607
構築物	402,644			402,644	307,825	9,177	94,819
機械及び装置	5,905,463	116,202	10,895	6,010,770	5,318,945	139,396	691,824
車両運搬具	17,480			17,480	16,571	1,482	908
工具、器具及び備品	423,590	57,240	4,803	476,028	410,370	44,842	65,657
土地	317,363	600		317,963			317,963
リース資産	137,484	32,881	6,811	163,554	93,100	23,350	70,454
建設仮勘定	138,208	336,933	127,502	347,639			347,639
有形固定資産計	13,965,454	653,859	150,012	14,469,301	9,790,427	387,708	4,678,874
無形固定資産							
ソフトウェア	3,065	11,089	2,045	12,109	2,644	1,950	9,464
電話加入権	2,412			2,412			2,412
リース資産	36,593		777	35,816	27,064	7,163	8,751
借地権	360			360			360
無形固定資産計	42,430	11,089	2,822	50,698	29,709	9,113	20,989

(注) 当期増減の主なものは次のとおりであります。

当期増加額のうち主なもの

建物	大多喜工場	第一製造B棟リフォーム費用	81,658千円
建物	府中工場	3階空調設備	16,614千円
機械及び装置	大多喜工場	汎用NCLB20000EX	18,500千円
機械及び装置	大多喜工場	マシニングセンター	20,500千円

当期減少額のうち主なもの

機械及び装置	大多喜工場	レーザーマーカ-	5,700千円
機械及び装置	大多喜工場	本体加工専用機VIM-1型	2,146千円
機械及び装置	大多喜工場	本体加工専用機VIM-1型	2,146千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	303	314		303	314
賞与引当金	40,900	48,000	40,900		48,000
役員退職慰労引当金	259,307	17,200			276,507

(注) 貸倒引当金の当期減少額の「その他」欄の金額は、洗替による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

決算日後の状況

該当事項はありません。

重要な訴訟事件等

該当事項はありません。



## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
手数料	無料
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.hamai-net.com/corporate/ir/index.html">http://www.hamai-net.com/corporate/ir/index.html</a>
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式については、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

会社法第194条第1項に規定する単元未満株式の売渡しを請求することができる権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第86期(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)平成30年3月30日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第86期(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)平成30年3月30日関東財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第87期第1四半期(自 平成30年1月1日 至 平成30年3月31日)平成30年5月15日関東財務局長に提出

第87期第2四半期(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)平成30年8月10日関東財務局長に提出

第87期第3四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)平成30年11月14日関東財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

企業内容等に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成30年4月4日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号(財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象)の規定に基づく臨時報告書

平成31年2月27日関東財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成31年 3月22日

株式会社ハマイ  
取締役会 御中

監査法人まほろば

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 土 屋 洋 泰

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 関 根 一 彦

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハマイの平成30年1月1日から平成30年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ハマイ及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社八マイの平成30年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見できない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社八マイが平成30年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

平成31年 3月22日

株式会社ハマイ  
取締役会 御中

監査法人まほろば

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 土 屋 洋 泰

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 関 根 一 彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハマイの平成30年1月1日から平成30年12月31日までの第87期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ハマイの平成30年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。